



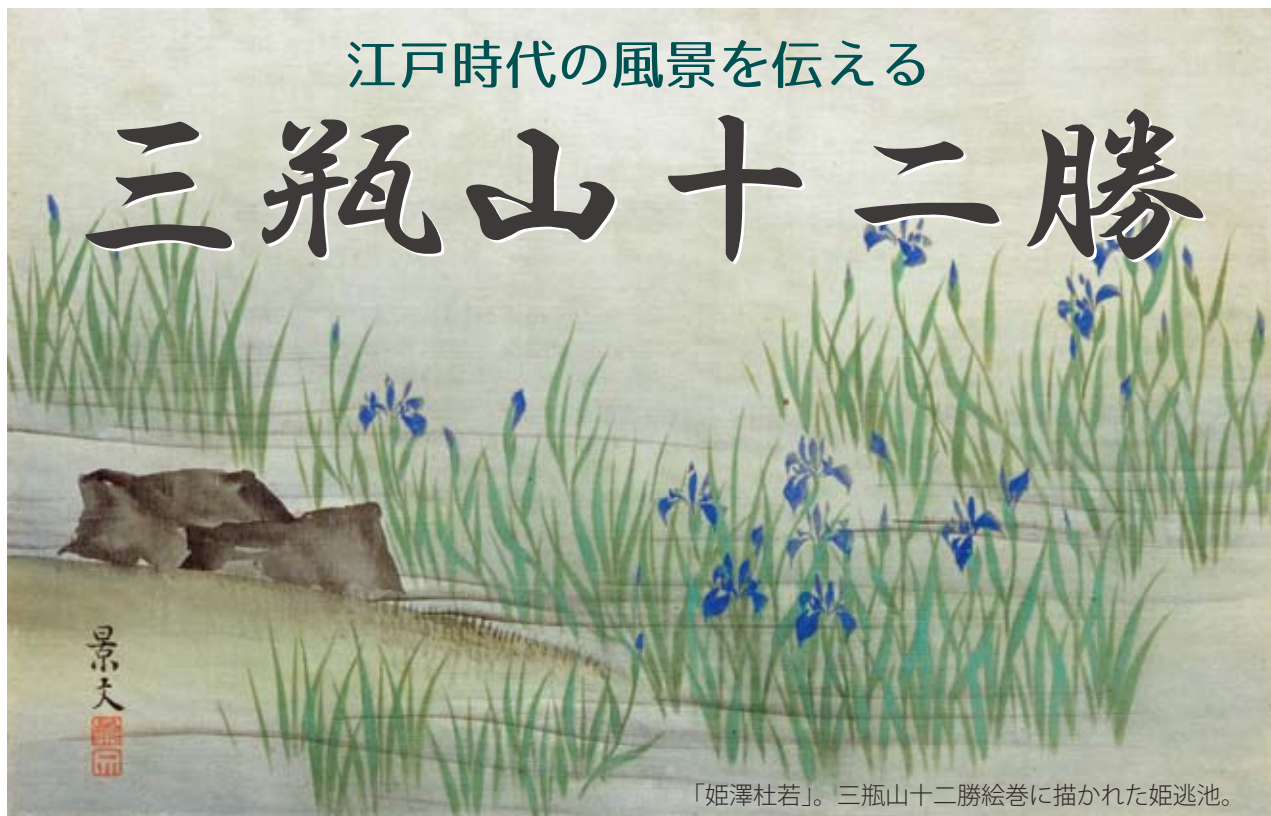
三瓶山北の原草原に咲くオキナグサ

春、冬枯れ色残る草原に深紅の花が咲いています。三瓶山の草原を象徴する植物のひとつ、オキナグサです。

三瓶山ではオキナグサをはじめ、草原で育つさまざまな草花を見ることができます。草原環境は三瓶山の大きな特徴です。1960年代までは山すそと峰々のかなりの部分が草地におおわれ、今以上に柔らかな印象の風景が広がっていました。この草原が成立した背景には、三瓶山が火山活動によって生まれたこと

が少なからず関係しています。

三瓶山の山すそは、溶岩のかけらと火山灰が降り積もってできたなだらかな地形が取り巻いています。火山灰土壌ゆえに水はけがよく、田畑としての利用に向かない土地です。そこで、牛馬を飼育する牧野として使われるようになりました。その歴史は江戸時代にまで遡ります。牛の飼育数は明治時代には4000頭前後にも達し、草原に牛がたたずむ景観は現代まで受け継がれています。



江戸時代の三瓶山の魅力を日本画と漢詩、和歌で表した絵巻物が伝わります。この「三瓶山十二勝巻物」は、定め松や湯谷温泉（三瓶温泉の源泉付近）、姫逃池などの12カ所について、それぞれを表現したものです。出雲市の個人宅で保管され、普段は目にすることができない貴重な資料ですが、今春の企画展「絵巻物とみる三瓶山今昔」では、3巻の絵巻物を展示し、現在の風景写真、映像や動植物の標本とあわせて三瓶山の魅力の昔と今を紹介します。



三瓶山十二勝巻物

上段が漢詩、中段が和歌、下段が日本画の3巻。

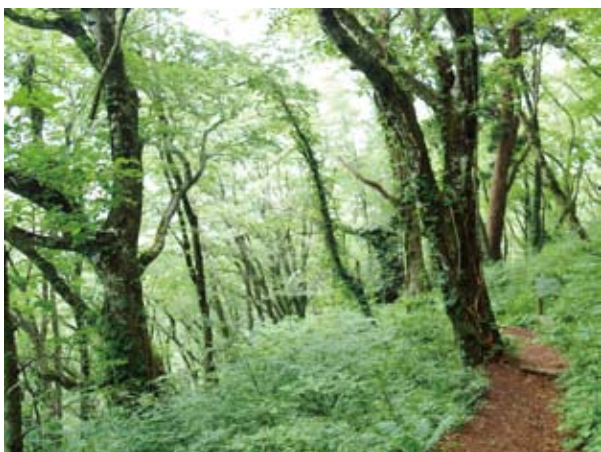
三瓶山十二勝絵巻は寛政年間（1789～1801年）に志学村（現大田市三瓶町志学）出身の医師、今田知郷が制作したものです。巻物の記載によると、医術の勉強のため京都を訪れた知郷は、三瓶山が世に知られていないことを知りました。そこで、故郷の魅力を広く伝えたいという思いから、京都で活躍する絵師に依頼して代表的な景勝地を描いてもらい、さらに和歌と漢詩を加えて十二勝を作ったとのこと。絵師たちは実際に三瓶山の風景を見て描いたものではないかも知れませんが、上の姫逃池の絵など今の景色にも通じるところがあり、当時の雰囲気を感じさせてくれる作品になっています。



春期企画展「絵巻物とみる三瓶山今昔」

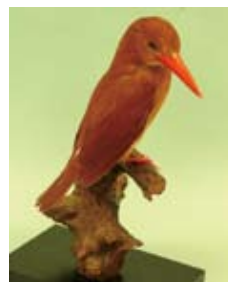
令和2年の春期企画展は、三瓶山北の原で第71回全国植樹祭が開催されることを記念して、大田市ほかとの共催で三瓶山十二勝絵巻の実物展示と解説を中心にしながら三瓶山の自然を紹介します。展示では、十二勝の地点を地形模型やドローンによる空撮映像で紹介します。

また、十二勝で紹介された場所以外の三瓶山のすぐれた自然や風景も紹介します。例えば国の天然記念物の「三瓶山自然林」には、県内でも貴重なブナ林が広がり、アカショウビンなどの野鳥のさえずりを耳にすることができます。このように、現在の自然を取り上げ、そこに暮らす生きものたちを紹介します。



ブナが茂る三瓶山自然林

そのほか、三瓶山の古い写真の展示で近現代の風景の移り変わりを紹介するほか、全国植樹祭で植えられる樹木の標本を展示します。



アカショウビン



樹幹標本(左)とアクリル封入標本(右)

全国植樹祭で天皇后両陛下が植えられる木はスギやヤマザクラなど、播かれるタネはクロマツやクルミなどです。これらの木の標本を展示し、身近な樹種でありながら意外と知られていない特徴を紹介します。

4月16日 展示が新しくなってリニューアルオープン

この春、三瓶自然館の展示室が新しくなってリニューアルオープンします。

新しくなるのは本館の展示室です。1階展示室は五感を使って自然を楽しむお子さま向けの展示になり、毛皮に触れる、鳥の声を聞くなどの体験ができます。2階展示室は、火山噴火が作り出した三瓶山の生い立ちを大迫力の映像で紹介するコーナーや、自然について学ぶことができるクイズコーナーが一新され、これまで以上の臨場感を楽しむことができます。より詳しい解説を行うしかけもあり、スマートフォンやタブレットでwifiを利用して展示に関連する解説動画や外国語による解説を見ることができるようになります。

また、新館4階の出入り口(姫逃池側)付近が増築され、国立公園三瓶山と島根県内のフィールド情報を提供するビジターセンターとしての機能が充実します。




本館1階展示室(上)と2階の映像コーナーのイメージ図


4～5月のイベント

 月イチガク①<マチ・カラ> 大森町で石を見る	4/11  14:00～17:00	「石」を見ながら銀山を歩く、変わった趣向のマチ歩き。町並みから大田市の自然の歴史が見えてきます。	定員：20名  料金：無料	集合場所は、石見銀山世界遺産センター。第3駐車場をご利用ください。
 ミニ写真展 火山からの贈り物 ～おおだの風景展～	4/16  ～6/28  9:00～17:00	太古の火山が町の歴史に深く関わる大田市。町の風景とそこに秘められた自然の歴史を紹介。	定員：なし 料金：入館料	
 リニューアル記念 特別ギャラリートーク	4/19～5/24 <日曜日開催>	担当学芸員が新しくなった展示のみどころを紹介します。	定員：20名 料金：入館料	
 サヒメルきっずサンデー	4/19  10:00～16:00	きっずプラネタリウムなど、小さなお子さま向けの楽しい1日。	定員：なし 料金：入館料	
 ゴールデンウィーク 天体観察会	5/2  ～5/5  19:45～20:30～ 21:15～	4夜連続で観察会を開催。天文台の望遠鏡で月や春の天体を観察します。	定員：各回80名 料金：大300円 小100円	先着順。30分前から受付。 ※予約はできません
 バードウォッチング講座 ～さえずりから識別基本10種編～	5/10  9:00～12:00	北の原周辺の野外を歩きながら、身近で基本的な野鳥の鳴き声に耳を傾けます。	定員：20名  料金：100円	
 月イチガク② 先端技術で年輪を読む	5/17  14:00～15:30	埋没林の木は情報の宝箱。年輪から木が生きた時代の様々な情報を読み取る技術とその成果を紹介します。	定員：20名  料金：入館料	
 春の男三瓶山に登ろう	5/16  9:00～14:00	新緑の男三瓶山に登りながら自然観察を行います。	定員：30名  料金：100円	
 サヒメルきっずサンデー	5/17  10:00～16:00	きっずプラネタリウムなど、小さなお子さま向けの楽しい1日。	定員：なし 料金：入館料	
 三瓶山アウトドアツアー	5/23  9:00 ～(24日) 13:30	キャンプ未経験の大人を対象にしたキャンプ講習会。また、キャンプ場周辺でのアウトドア活動も体験します。	定員：10名  料金：1組6,400円 別途1人6,100円	料金は、6,400円+ (6,100円×参加人数) になります。
 親子で作ろう工作教室 カタカタくんだり	5/24  13:30～14:30	立てた板の上を人形がカタカタと音を立てて下るおもちゃを作ります。	定員：子ども20名 と保護者  料金：100円	

 このマークがあるものは予約制のイベントです。予約は1ヶ月前から実施する施設ごとに電話で受付します。

 三瓶自然館：0854-86-0500

 三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500

 三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

イベント
定期

プラネタリウム星空案内	定期天体観察会	天文ミニガイド	北の原お散歩ツアー
月ごとのテーマで季節の星空などを天文研究員がライブ解説。 ■毎週土曜日 ■15:00～15:45	大型望遠鏡を使ってその時季に見られる天体を観察。 ■毎週土曜日 ■4月、5月：20:00～、21:00～ (各回約45分)	天体望遠鏡や天文展示の解説。晴れた日には太陽の観察も。 ■毎週土、日、祝日 ■13:30から (約30分間)	北の原草原などで、季節の花や景色など、草原の自然を紹介。 ■毎週土曜日 ■14:30から (約30分間)

※定期イベントは、入館者対象、予約不要です。天体観察会は大人300円、小中高生100円。

島根県立三瓶自然館サヒメル

- 開館時間
9:30～17:00 (4～9月の土曜日は18:00まで)
- 休館日 **※4月16日から開館**
毎週火曜日 (火曜日が祝日の場合は翌平日)
※年末年始、その他、メンテナンス休館あり



三瓶フィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサポしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサポしまね(松江事務所)では、地球温暖化対策等の事業を行っています。